事　業　報　告

令和４年度（2022 年度）

【令和４年４月１日から令和５年３月 31 日まで】

学校法人あけぼの学園

法 人 概 要

【法人の沿革】

1953年11月 2日	「あけぼの幼稚園」設置認可　設置者（園主）安家茂美
1954年 4月 1日	「あけぼの幼稚園」開園（南桜塚）　園長　安家周子
1975年 5月 1日	豊中市の委託により「あけぼの簡易保育園」を併設（幼保一元化試行）
1981年11月12日	『学校法人あけぼの学園』設立認可（所在地：豊中市南桜塚2-14-7） 理事長　安家茂美 「あけぼの幼稚園」設置者を『学校法人あけぼの学園』に認可変更
1988年11月12日	『学校法人あけぼの学園』　初代理事長　安家茂美死去
1988年11月21日	『学校法人あけぼの学園』　理事長　安家周一就任
1994年 4月 1日	「あけぼの幼稚園」　園長　安家周一就任（理事長兼任）
2001年 4月 1日	「あけぼの簡易保育園」が認可され、「あけぼのっこ保育園」に名称変更
2009年 4月 1日	「幼保連携型認定こども園あけぼの幼稚園あけぼのっこ保育園」認可
2015年 4月 1日	「あけぼの幼稚園」と「あけぼのっこ保育園」に認可変更
2016年 4月 1日	幼稚園型認定こども園「あけぼの幼稚園」と 認可保育園「あけぼの保育園」に認可変更
2018年 4月 1日	企業主導型事業所内保育所「あけぼのこもれび」設置
2019年 4月 1日	幼保連携型認定こども園「あけぼのほりえこども園」開園（大阪市西区） 園長　安家力就任

【保育の方針】

保育理念：保育する上での根本的な考え

今しかできないこと、今だからできること　しっかり看つめること　ギュッとハグすること
自分の興味を満喫させて遊ぶこと　思いっきりカラダを動かすこと
大人みんなで精一杯愛すること　大人も育つこと　私たちはこんな保育園を目指します

保育目標：保育の具体的な目標

すべての生活から健全な心身を育てる
すべての生活からよく考える力を育てる
すべての生活から愛情と自立心を育てる」

モットー：こどものあるべき姿

「よくみる　よくきく　よくする」

スタッフポリシー：保育者としての原則

①こどもの安全が最優先されているか
②日々の生活が大切にされプログラムがこども側の論理に立っているか
③保護者に対して共感的態度で接しているか
④自分が人間として自立しているか
⑤自分が保育者として向上心があるか
⑥日々適切に報告、連絡、相談（ホウ、レン、ソウ）ができているか
⑦「もったいない」を大切にしよう
⑧自分を大切にし、周りの人を大切にする　（No２の役割とティームワーク）

【役員・評議員の状況】

理事6名・監事2名　任期：令和4年3月22日～令和8年3月21日

	役職	氏名	職業等
1	理事	安家　周一	学校法人あけぼの学園　学園長
2	理事	安家　力	学校法人あけぼの学園　あけぼのほりえこども園　園長
3	理事	安達　譲	学校法人ひじり学園　理事長
4	理事	鎌倉　利光	桧垣･鎌倉･寺廣法律事務所　辯護士
5	理事	秦　賢志	学校法人小寺学園　理事長
6	理事	水谷　豊三	学校法人成城学園　理事長
1	監事	上保　小太郎	元法人事務長
2	監事	河端　秀雄	元豊中市職員

評議員13名　任期：令和4年3月22日～令和8年3月21日

	役職	氏名	職業等
1	評議員	安家　周一	学校法人あけぼの学園　学園長
2	評議員	安家　匠	学校法人あけぼの学園　あけぼの幼稚園　園長
3	評議員	安家　尚子	社会福祉法人あけぼの事業福祉会　本部マネージャー
4	評議員	安家　比呂志	社会福祉法人あけぼの会　理事長
5	評議員	安達　譲	学校法人ひじり学園　理事長
6	評議員	宇和田　修一	学校法人あけぼの学園　あけぼの幼稚園　教頭
7	評議員	杉本　圭隆	むつみこども園　園長
8	評議員	辰巳　正信	学校法人たつみ学園　理事長
9	評議員	中田　晴彦	ミラクシア エッジテクノロジー株式会社
10	評議員	中橋　美穂	大阪教育大学　教授
11	評議員	濱名　浩	学校法人あけぼの学院　理事長
12	評議員	水谷　豊三	学校法人成城学園　理事長
13	評議員	三石　深雪	学校法人基督心宗学園　理事長

【理事会・評議員会の開催状況】

日程	議案及び出席者数
令和4年5月24日(火)	評議員会（出席評議員：11名） 理事会（出席理事：5名、監事：2名） ・令和3年度事業報告及び決算報告について
令和5年3月20日(月)	評議員会（出席評議員：11名） 理事会（出席理事：6名、監事：2名） ・令和4年度補正予算について ・令和5年度事業計画及び当初予算について ・各種規程(就業規則、給与規程、経理規程、 育児介護休業規程、

	保育園運営規程、ほりえこども園園則)の改定について
令和5年5月30日(火)	評議員会（出席評議員：9名） 理事会（出席理事：4名、監事：2名） ・令和4年度事業報告及び決算報告について ・法人役員の一部改選について

【法人全体の報告】　　理事長：安家 周一

当学園は、2つの認定こども園と一つの3歳未満児保育所、企業内保育所を運営するが、今年度は概ね良好に推移した。「子どもたちの命と育ちが護られ、保護者が子育ての喜びが感じ、教職員が仕事に誇りを持てること」を目指し、各施設の努力がそこあそこに見られ、充実した1年となった。

長時間預かりについても予算配分されたことにより新２号児が誕生し保護者の経済的負担の軽減が図られる。若年層保護者が共働きを選択することが容易になるというメリットと、家庭の豊かな時間が減少することという価値をバランスよくすることに取り組めたかどうかは不明であるが、保護者との様々なステージで交流・会話を持ち、悩みの相談や工夫の交換などに努めた。

当法人職員の勤続年数が伸びつつある。いきおい結婚に続いて産休・育休取得を選択する職員が増加している。大変喜ばしいことではあるが、反面日本の慣行で女性に出産子育ての負担がのしかかることによって勤務体制に影響が大きい。この問題は今後も続くものと思われるが、超少子の時代、日本の将来を見据えて、社会的に護られた子育て環境を模索したい。

様々な外部研修やティームビルディングなどによって、教職員のティームワークや資質の向上が感じられる。今年度も取り組んだ、働き方改革の意識も、徐々に浸透し、来るべき超過勤務手当への取り組みなどの見通しが立ちつつある。

○各施設共通の具体的な取り組み

Ⅰ］コロナ禍に対する行事の見直しや働き方改革

困難な場面もあったが、協力し支え合って切り抜けることができた。

Ⅱ］処遇加算による人件費の改善

待遇の改善が叫ばれる中、国主導で人件費のアップに取り組む影響から　単価９０００円加算が実行され、給付額が増加する予定。従来の処遇加算Ⅱと共に処遇改善に取り組めた。

Ⅲ］内外の環境整備、修繕、整備

今年度も室内環境、屋外環境を点検し、環境の改善に取り組むことができた。

各 施 設 報告

【あけぼの幼稚園】　　**園長**：安家 周一　副園長：安家　匠

本年度の報告：

目標・計画	具体的な取組方法
保育を楽しもう、おもしろがろう！そして、それを発信しよう！	【計画】 昨年度掲げていた「みんなで学びましょう！深めましょう！」という目標に向かって日々職員が子ども達や保護者の最善の利益の為に取り組んでくれたことに心から感謝している。保育経験などで差はあるものの、日々の立案や保育実践、振り返りを通して年度が進むにつれ、より子どもの成長に即した保育が行われていた。今年度は去年度の良い部分を土台にしながらも、保育の原点である子ども達と一緒に**楽しんだり、面白がったりできる心**を大切に保育することを目標に掲げる。それに加え、その保育を「どのように保護者に伝えるのか？」を問い直し、職員でアイディアを出し合い「自分達の保育や子どもの育ちを伝える」ということを見つめなおしていく
	【報告】 職員の保育に対する心持ちをどのように育てていくのか。保育を発信する重要性をどう伝えていくのか。職員の成熟度で保育実践や発信のクオリティーが左右されてしまったのが反省点である。それぞれの職員のマンパワー任せではないシステム作りが今後の課題である。
1つの大きなチーム（組織）としての成熟	【計画】 総勢45名のチームになる今年度、学年や役割ごとに８つの小チームに切り分け（別紙参照）、小チームの中でのリーダー・責任者を明確化し、それぞれのチームが自立できるような組織づくりを目指す。小チームの中で自ら考えおもしろい保育を展開することや、日々起こる問題を解決していくことなど小チームの成長をチーム幼稚園の成熟に繋げていく。また、良い意味でチーム同士が切磋琢磨して共に高め合える関係性の構築を目指す。
	【報告】 まずは 8 つ全てのチームが最善を尽くし、年度末まで子ども達の為に保育に向き合ってくれたことに感謝したい。その上で、各チームのリーダーが担任を持っていることで、リーダーとしての仕事まで手が回らない状況が多くあった。職員の頑張りを支えるシステムが未熟だったことが今年度の大きな反省点である。その中でも、次

	世代を担うリーダー候補が育ったことも今年度のリーダー達のがんばりの賜物であると感謝している。
「関係の質」 から 「思考の質」 へ	【計画】 昨年度は難しい状況の中ではあったが、チームビルディング研修や公開保育などを通して職員の「関係の質」を高める取り組みを数多く行った。年度中盤からはその成果も見え始め職員同士が高め合う姿が多く見られるようになった。そこで、今年度はここまで培ってきた「関係の質」を基盤に職員の「思考の質」を高めていききた。ここでの「思考の質」とは、「あけぼのの保育で大切にしていること」や「社会人としての姿勢」などチームとして様々な物事に対する共通意識の質を高めるということである。「思考の質」の向上は「働きがい」の向上に繋がると信じ精進していきたい。
	【報告】 ここ 3 年程積み上げてきたチーム力が実り始めている中で、保育の理念や、あけぼのの職員としてプライドを持つことなど「思考の質」が高まった1年であり、「保育理念」や「あけぼのの職員としてのプライド」など、それぞれが見る景色が少し一致してきており、これを土台に保育の質も高まった1年であった。
地域の子育ての中心として	【計画】 少子化や共働き家庭が増える昨今、園児募集も年々厳しさを増している。そこで、今年度は2歳児プレクラスの定員増員を行うと共に園外子育て支援メニューを週2回、さらに、園内での子育て支援メニューの充実を図る。内容として、通年の親子絵本クラスと1歳児クラスを軸に1学期には2歳児対象の子育て支援メニュー、2・3学期には0歳児（妊娠中のお母さん含む）が交流できるメニューの開催を予定している。さらに、2学期からは厨房と連携して離乳食教室も開催予定である。この活動を通して地域の子育て世代との繋がりを密に図り、地域の子育ての中心として歩み、結果として園児獲得に繋げたい。
	【報告】 新たな試みを行う中で、地域の保護者のニーズと我々が考える子育て支援メニューの内容がかみ合い、より多くの方々の子育てに関われた1年となった。その上で、あけぼのへの入園を希望して下さる方々も増え、2023年度の2歳児クラスは大入りの40名を獲得することに成功した。これに満足せずに来年度以降も新しいチャレンジを継続させていく。

【あけぼの保育園】　　**施設長**：影山　佳代

本年度重点的に取り組む目標・計画と具体的な取組方法：

目標・計画	具体的な取組方法
リーダーとなる職員の育成	【計画】 ＊主任職員の乳児保育の経験がないため、話し合いを密にすることで保育の事、保育園全体の事をより理解できるよう取り組む。 ＊保育園リーダーミーティングをコンスタントに行うことでリーダーがクラスの職員に保育を語り、伝達することに自信が持てるようにする。
	【報告】 ＊主任との連携を密に行うことで、意識統一ができリーダーへの伝達もスムーズに行えた。 ＊リーダーミーティングをコンスタントに行うことは出来たが、保育についての学びを深めることに課題が残った。理由として時間の確保・議題の整理（話の優先順位のつけ方）が甘かった。
職員の働き方を明確にする	【計画】 ＊今年度は正職のフリー職員の配置がないことから、非常勤職員のポジショニングを明確に示し１人１人が自覚を持って動けるようにする。 ＊１ 年間の子どもの育ちに合わせて職員の配置も変化することを明確に提示することで、子どもの自立の妨げにならない職員配置を行う。
	【報告】 ＊非常勤職員の動きを表に表すことで、職員が意識して動くことができ、また、休みの職員がいた時は、その表を確認することでフォローに入る体制がとれた。課題として、正職員がその表を意識して動くことがなく、その都度確認する姿があったため、次年度は正職も含めた時間の動きを作成し、全職員が保育園職員の動きを知ることでフォローできる環境を作る。
専門性の向上	【計画】 ＊経験年数のある職員の保育園経験が少ないことから、他施設への見学や実際の交流を通して乳児保育の専門性を高める。 ＊実際の保育から事例をあげて研修を行い、子どもの育ちを見取る力を養う。
	【報告】 ＊園内研修の時間を毎月少しでも取ることは出来たが、専門性の向上に向けた研修には課題が残る。動画や事例をあげての研修を次年度は積極的に行いたい。
幅広い仕事の取組み	【計画】 ＊栄養士、看護師が厨房内や・看護師業務だけにとらわれず保育園全体が円滑に進むよう保育の中や事務関係にも携わる。 ＊厨房職員は、正職を中心に子どもの食事場面に入ることで実際の食事場面の流れを知っていく。
	【報告】 ＊看護師との連携が濃くできたため、看護師が一人一人の子どもの様子を把握し、保護者に話すことがスムーズだった。厨房との連携に課題が残った。

全体の振り返り

＊１歳児担任３人のコミュニケーションがうまくいかず、園長・主任が１年間間に入ってフォローする形となった。

【あけぼのこもれび】　　**施設長**：北原　則子

本年度重点的に取り組む目標・計画と具体的な取組方法：

目標・計画	具体的な取組方法
書類の見直し	【計画】 ＊児童育成協会の研修に参加し企業内保育施設としての必要な書類などの整理を行う。
	【報告】 ＊研修に参加することで、必要書類等の内容を知れた。
地域枠の見直しと課題	【計画】 ＊職員の子どものみの受け入れでは収入が見込まれないため、現在幼稚園・保育園在籍のきょうだい対象に 2 歳児の受け入れの幅を広げる。 ＊受け入れを広げることで、保育園、こもれび 2 歳児の総園児数が 20 名を超えることで、保育室、職員の配置など取り組みながら毎年見直しを行い形にしていく必要がある。
	【報告】 ＊こもれび２歳児の一般枠を広げることで園児数は増えた。保育園２歳児と合同で保育を行っているため、こもれびの 2 歳児一般枠が増えると、その分２歳児としての人数も増えるため、保育室が手狭であった。そのことから次年度は 2 歳児の保育室を 2 クラスすることで、１クラスの人数の調整を行う。

＊全体の報告

今年度は一般枠が増えたため、定員の８割の園児を確保することができた。しかし、令和５年度第２子以降の無償化によってどこまで、こもれびの一般枠の園児を確保できるかが不安要素となる。

【あけぼのほりえこども園】　園長：安家 カ

昨年度重点的に取り組んだ目標・計画に対する報告：

目標・計画	具体的な取組方法
①ECEQ 型公開保育の実施	計画
	・2021 年度 ECEQ 公開保育の実施予定としていたが、コロナの影響により一年延期となった。開園から丸 3 ヵ年を経た保育の確立、同僚性の向上を踏まえ、第三者評価となる公開保育の実施を行い、この園の良さを自分たちで認識するとともに、課題を見つけ課題解決のための具体的アプローチを共有していく。
	報告
	・9 月に無事、1 年越しの ECEQ 公開保育を 100 名を超える方に来園いただき無事に実施することができた。日々の保育に対する高い評価と、今後の更なる質向上のための課題を全職員で把握することが出来、非常に有意義な時間となった。
②更なる地域子育て支援の拡大実施と保護者支援	計画
	・年三回のあけぼのおもちゃ箱（未就園児対象）の拡大実施 ・月二回の園庭開放の継続実施 ・ぽれぽれキッズ（2 歳児対象プレクラス）の継続 ・ぽれぽれベビー（0 歳児対象親子クラブ）の新規実施 ・外部講師による保護者向け子育て講演会の新規実施（年２回程度）
	報告
	・未就園児向けイベントおもちゃ箱の実施については年三回の実施を達成。新入園に繋がるイベントとなり、今後更なる工夫と検討を行い継続していきたい。 ・園庭開放にはコロナ禍の影響で例年より少ない参加人数となったが、園庭環境をきっかけに新入園児が増えていることも鑑み、今後も園の魅力の訴求のためにも継続実施していく。 ・2 歳児対象のプレクラス、ぽれぽれキッズも、全 10 クール（各 10 名）での実施を達成。こちらも新入園児獲得や園への理解のための機会として有効に機能した。次年度はその実施方法を含め、参加者からの意見を取り入れてく更なる検討を行い、実施したい。 ・ぽれぽれベビーとして 0 歳児対象に 21 回の実施を達成した。 ・歯科医による講演会、育児に関する映画上映会計 3 回の合計 4 回の保護者向けイベントを実施できた。
③実習生受け入れ開始	計画
	・中長期期計画で示していた通り、開園 3 ヵ年においては各職員の保育観の共有を行うことに専念してきた。開園 4 年目となる 2022 年度については、積極的に実習生受け入れを行い、保育者を目指す学生を育て、採用の機会を生み出すとともに、職員自身の保育の振り返りや気づきの機会とする。

	報告
	・2022 年度は実習生８名、インターン生２名の合計１０名を受け入れ、各職員の丁寧な指導を通して、職員自身の保育に対する気づきや学びに繋がっていると感じる姿も見られた。また、実習生の中から就職を希望する学生が採用試験を受け、正職員として勤務することが決まるなど、園運営にも一定の効果が出た。
④保育発信と振り返りの強化	計画
	・これまでの 3 年間の活動を通して、他園に誇れる自園の取り組みを職員自身が理解し、発信する機会を持つことができなかった。コロナ後の学会などの機会を活用し、自園の保育を発信し、フィードバックをもらうことにより自園の保育を振り返る。
	報告
	・残念ながら、予定していた学会がオンライン実施となり、ポスター発表の機会は次年度に持ち越しとなった。 ・一方で、ECEQ 公開保育を通して自園の保育を見ていただき、フィードバックをいただくことにより自分たちの保育を振り返る大きな機会は得ることが出来た。
⑤SPS 再認証への取り組み	計画
	・2019 年に認証を得た SPS（セーフティプロモーションスクール）も 4 年ごとの計画の中で再認証の年を迎える。引き続き防火・防災・防犯･交通という４つの要素を危機意識をもって日々の取り組みに反映させ、有事の際の対応に行かせるよう園全体として取り組みを行う。
	報告
	・防火・防災・防犯・交通に対する意識の高い訓練や、訓練後の振り返り、SPS 会議の継続等、有事に備えた体制はしっかりと築かれている。 ・一方で、イレギュラーな形での訓練には問題も多くみられることから、各自が自分事として引き続き SPS 認証園の一人として意識を高く持つことが出来るよう、取り組みを継続していきたい。 ・西警察から、日ごろからの交通安全への取り組みが表彰され、また、近隣交差点に設置の看板に年長児の手形が使用された。